
とある無敵の多重能力者

ゆっぴー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある無敵の多重能力者

【Nコード】

N8143Z

【作者名】

ゆっぴー

【あらすじ】

テンプレでとあるの世界に転生したレベル6で聖人で多重能力者で世界最高の魔術師である神野秀也が原作介入をする話です。

この作品は、作者の処女作で駄文です。さらに不定期でオリ主最強ですが、「それでもいい」という心優しい人は読んで下さい。

プロローグと第一話（前書き）

はじめて、ゆっぴーです。

この作品は処女作で駄文の不定期です。

故にキャラ崩壊があるかもしれませんが。

「それでもいい。」っていう方は、このままお読み下さい。

プロローグと第一話

突然だが、俺は死んだらしい。どちらかと言うと夢であって「夢じゃあないぞ。」… 夢ではないらしいので、本当に死んだようだ。

神「本当にすまない。お主は、家庭科の調理実習中に、こっちの者のミスで全身火だるまになって死んでしまったようじゃ。」

なるほど、これがいわゆるテンプレというやつか。そういえばなんか最期すごい熱かった気がする…。

神「というわけで、お主には、『とある』の世界に転生してもらうことになった。」

あつ、ちなみに俺の名前は、神野秀也（14歳）だ。そして目の前に、神一（？）がいる。

神野「何が」というわけで、『かわかんないですけど、別にその世界好きだったからいいですよ。あと、特典って何か付きますか？』ちなみに俺は禁書のアニメしか見ていないが、『スクール』が反乱を起こすことや、第三次世界対戦があることは、友人から聞いている。

神「全然大丈夫じゃ。まあ、ある程度は才能でどうにかなるが、それ以上はそれなりに苦労してもらうがの。」

…それって、特典にならないので「なるぞい。」

あつ、心読まれた。

神「努力してもどうにもならないことも、強制的に努力させてその力を身に付けさせてやると言っておるんじゃ。立派な特典じゃろっ?」

…なるほど。

神野「では、とりあえず聖人にしてください。あと、レベル6で多重能力者 デュアルスキル で、さらに十万三千冊の魔導書の記憶とあり得ないほどの天使の力 テレズマ をください。」

神「天使の力と聖人は、才能でどうにかしておくが、あとは努力するんじャの。まあ、原作開始までには、どうにかしておくぞ。」

それなら、問題無さそうだな。そういえば何でとあるの世界なんだろう?

神「勿論、儂の好きな世界じゃからに決まっておろう。もう言いたいことはなさそうじャの。では、第二の人生を存分に楽しんで来るがよい。」

そして俺の目の前が真っ暗になった。

はい、こんにちは。無事転生して今幼稚園の年長になった神野

秀也改め、高田直人だ。

まあ、俺の転生後直ぐの生活なんか誰も知りたくないと思うから飛ばさせてもらおう。とりあえずすんごい恥ずかしかつただけ言っておこう。

ちなみに今、俺にはいつも一緒に遊んでいる友達、というか妹みたいなのがる。それが、「直人お兄ちゃん！」「ぐふっ！！」いま俺の鳩尾に頭突きを食らわしてきた佐天涙子である。

高田「んー、涙ちゃん（なみだちゃん）どつたの？」

佐天「えぐっ、あのね、ひくっ、おんなじクラスのね、ずずっ、高良さんと、吉田君がね、うぐっ、いきなりわたしのこと蹴つてきたの、うわーん！！」

このように、かなりの頻度で俺に泣いて来るから、「涙ちゃん」って呼んでいる訳だが、今はそんなことどうでもいい。俺の妹を泣かせたやつと少し O H A N A S H I I しなくては！！

ちなみなにこんな風に涙ちゃんを泣かせたやつは、年上だろうが聖人の力でボコつって謝らせている。決してロリコンなんかじゃないんだからな！………今のは忘れてくれ。

まあ、俺はこんな感じで第二の人生を存分に楽しんでいる。

くその夜

高田直人の父（以降父）「お前ももうすぐ一年生なんだし学園都市に行ってみないか？」

高田直人（以降高田）「うん、いいよ！！あそこなんか楽しそうだし。（原作介入したいし。）」

おっしやきたああ！！！！やっと自分の能力がわかるぞおお！！！！明日、涙ちゃんの説得大変そうだな。うん、頑張ろう…

（翌日）

高田「俺、来年から学園都市に行くことになったんだー」

と過去（前世含む）最高のテンションで話す。

佐天「えー、直人お兄ちゃんと離れたくない！！わたしも一緒に行く！」

と若干涙目になりながら言う。

高田「まあ、行きたいんだっつたらまず三年後の小学生になってからだな。それに、一生会えない訳じゃ無いし。あとすぐに泣かないようにすることだな。最後に、これを俺だと思って大切にしてくれ。」

と言って、白い花の髪止めを渡す。

佐天「うん！！わたしもう泣かない！！」

なんとかなだめることができた…

ブログと第一話（後書き）

感想評価、どんどん下さい。

しかし返信できないかもしれません。

あと批判は、できるだけオブラートに包んで下さい。

第二話 置き去り チャイルドエラー (前書き)

まさかの連続投稿です。

第二話 置き去り チャイルドエラー

確かに自分の家は裕福では無いとは思っていた。しかし自分がまさかあの置き去り チャイルドエラー になるとは、夢にも思わなかった。

基本的に置き去りには、二通りある。一方は、まともな施設で衣食住が保証され同じ施設の友人たちと、まとも暮らせる子達。もう一方は、ホイイ原アアクウウン的な方々に、「限界？なにそれ、食えんの？」という感じで、ぶっ壊される、またはそれに近いことをされる子達。そして残念ながら、俺は後者だった。

研究員「00044番、薬の時間だ。」

これは、俺のことだ。薬の仕組みはよくわからんが、それを静脈に1日三回入れられる。もう何カ月、いや何年間もこれをやっているが、全然慣れない。今でも時々意識を失うときがあるし、子供が死ぬのだってざらにある。

ただ、そんな生活の中で唯一良いことがあったとしたら能力者になれたことだ。ちなみにレベル4である。どんな能力かというと、

研究員「では00044番、この紙の模様を当てろ。」

俺「星です。」

研究員「いいだろう。」

透視能力 クリアボイランス ではなく生体電気や信号から相手の

考えていることを読み取る
情報覗見 ノンプライベート (研究員命名) である。もうすぐレ
ベル5になると言われている。

レベル5になると半径1km以内の人間、機械を自由に操れて、さ
らに能力者の自分だけの現実 パーソナルリアリティー の読み取
り、使用が可能になるらしい。つまり擬似的な多重能力者 デュア
ルスキル になるということだ。

〈数カ月後〉

レベル5になれた。最近では、慣れてきて一気に水と火と氷を出しな
がら、空間移動が出来たりする。
そんなある日、

研究員「お前は、これから違う研究所にいらつてもらつ。」

この言葉で、俺の人生は、より狂わせられていく……

〈数日後〉

研究所「一応、テメーらにも実験内容を教えてやる。これは、第一
位の自分だけの現実を直接テメーらの脳ミソにブチこんで多重能力
者を作るつー実験だ。ちなみに明白の四月計画つーんだ」

いや、待て。多重能力者つて脳が耐えられないから不可能じゃない

のか？子供5000人位集めても無理だろう、どう考えても。

実験結果は、一応成功で俺一人だけ生き残った。しかし実験中に暴走して、自分や周りの子を燃やしたり、発狂した子が続出し、唯一の成功例の俺も反射しかできないので、この実験は凍結となった。

↳さらに数カ月後

着々と能力を伸ばしてきたところで、新しい実験に参加することになった。

その名も超能力製造計画 レベル5ファクトリー

俺の能力の一つの演算補助と強制演算によって、能力者の演算能力を底上げしレベル5を作るという計画。

これも明白の四月計画とほとんど同じく300人中298人が暴走二人は成功したが、反乱を起こしたため、凍結となった。

この時実験の責任者に「実験に参加したくない。」と伝えたら、「その時は毒ガスで、君と実験台 モルモット を殺すしかない。」と言われて、仕方無く実験に参加した。

ちなみにその二人の能力は自分の体を操る身体掌握 ボディーコン

トローラー と空間移動系の固定座標 フリーポイント で俺の一方通行の能力は絶対守護領域 ミラーコート (研究員命名) となっている。

二ヶ月後

この時に俺のために最もなって、俺が最も嫌いな実験が行われた。

第二話 置き去り チャイルドエラー (後書き)

なぜこんなに話が重くなった…

冬休みの補習授業なんて消えてしまえ!!

感想評価誤字脱字の指摘お待ちしてます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8143z/>

とある無敵の多重能力者

2011年12月26日00時48分発行